

令和 8 年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県小・中学校学習状況調査結果を受けた取り組みについて
武雄市立（ 武雄 ）小学校

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R3 入学 現 6 年生	国語		算数	
	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時
	県	全国	県	全国
	57.8	46	56.9	45
	(0.95)	(0.82)	(0.91)	(0.87)
R8 正答率の全国比		0.76		0.8

◎ 5 年時は佐賀県小・中学校学習状況調査、6 年時は全国学力・学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

◎ 「令和 8 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【国語】

「構成メモの工夫を捉える問題」「文章の特徴を捉える問題」「筆者の考えに沿った文を選択する問題」に課題が見られた。また、筆者の考えを踏まえて自分の考えを記述する問題においては、無回答率が高い傾向がみられた。

これらのことから、文章の構造や要点を的確に捉える読解力と、それを基盤として自身の考えを根拠とともに論理的に表現する力に課題があると考えられる。

【算数】

「表の間違いを指摘・説明する問題」「分数の大小比較を説明する問題」「全体の時間から部分的な時間を算出する問題」「帯グラフから割合を読み取る問題」に課題が見られた。

問題の意図や条件を十分に把握することや文章情報と表・グラフなどの資料を関連付けて考察することに困難さを感じている児童が多いことが考えられる。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・思考や判断の根拠を言葉で表現する対話活動を重視し、指示語（「これ」「それ」等）に頼らず具体的な言葉で説明させる指導を徹底する。
- ・低学年の段階から、図や具体物の操作を通して「分数の概念や大きさ」に対する素地・感性を育む学習を取り入れる。
- ・問題解決の際、設問を事前に確認して課題意識を持ち、問いを意識した読みの目標設定や「俯瞰した読み」「部分読み」等の段階的な指導を取り入れ、「目的意識をもった読解スキル」を育成する。
- ・他者の文章や考えを読み合って構造・論理を分析する機会を増やし、思考の深まりや自身の表現へのフィードバックにつなげる。

(2) （授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・委員会活動や係活動などの特別活動の場面においても、目的に応じて自ら表や図、グラフを作成・活用する体験的な機会を意識的に設定し、日常的なデータを活用する力を高める。
- ・朝の読書タイムや学習タイムを活用し、多様な文章（子ども新聞や解説文等）に触れる機会を増やすことで、日常的に活字に親しみ、長文に対する抵抗感を減らして「読む体力」を養う。

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R3 入学 現 6 年生	国語		算数	
	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時
	県	全国	県	全国
	61.9	58	61.3	54
	(1.01)	(1.03)	(0.98)	(1.03)
R8 正答率の全国比		0.95		0.95

◎ 5 年時は佐賀県小・中学校学習状況調査、6 年時は全国学力・学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

◎ 「令和 8 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【国語】

- ・全体の平均正答率は、県平均および全国平均を上回っている。
- ・学習指導要領の内容別では、ほとんどの内容において県平均を上回っている。しかし、「話すこと・聞くこと」においては 0.8 ポイント下回っている。
- ・問題形式では、短答式においては、県平均を 8.2 ポイント上回っているが、記述式においては、県平均を 0.9 ポイント下回っている。
- ・問題の無解答率は、文章を読んで考えたことを、自分の経験と結びつけてまとめて書く項目が、県平均よりも 1.5 ポイントも高い。

【算数】

- ・全体の平均正答率は、県平均を上回っている。
- ・学習指導要領の領域別では、「データの活用」を除いて、県平均を上回っている。
- ・問題形式では、短答式が県平均を 5.4 ポイント上回っている。しかし、記述式については、県平均を 3.6 ポイント下回っている。
- ・無回答率は、ほとんどの問題において県平均を下回っている。「帯グラフから「いっしょに話ができたこと」の割合が約何%を選ぶという問題での無回答率が 10.9 ポイントと最も高い。

【意識調査】

- ・「将来の夢や目標を持っていますか」について、95.3%の児童が肯定的な答えをしている。県よりも 14% 上回っている。
- ・「学校に行くのは楽しいと思いますか」について、93.2%の児童が肯定的な答えをしている。県よりも 8.1% 上回っている。
- ・「月曜日から金曜日までの 1 日あたりの勉強時間」について、「30 分より少ない」と答えた児童の割合は 17.5%で、同校の昨年度との比較では、0.9 ポイント改善している。
- ・「土曜日や日曜日の 1 日あたりの勉強時間」について、「1 時間より少ない」「全くしない」と答えた児童の割合は 46.6%で、同校の昨年度との比較では、ポイント 15.6 ポイント改善している。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の授業づくりを行うために、生成 AI の活用方法を校内研修や校内研究で探り、学力の向上を図る。
- ・条件に合った文書を書くことができるように、自分の考えを書いたり説明したりする時間の確保や条件付き作文に取り組む活動の充実に努める。
- ・知識のアウトプットにとどまらず、それらを複合的に組み合わせて試行し、独自の見解を導き出せるような指導を行う。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・家庭学習の時間が昨年度より改善してきたことから、宿題の出し方を工夫し、児童の家庭での学習が意欲的に取り組めるようにする。
- ・普段（月曜日～金曜日）、読書をする割合が県や全国よりも少ないことから、読書を習慣化できる取り組みについて、「うちどく週間」などの取り組みを活かしながら家庭と連携しながら取り組んでいく必要がある。

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R 3 入学 現 6 年生	国語		算数	
	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時
	県	全国	県	全国
	54.5	47	51.6	45
	(0.89)	(0.84)	(0.83)	(0.87)
R 8 正答率の全国比		0.77		0.8

◎ 5 年時は佐賀県小・中学校学習状況調査、6 年時は全国学力・学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

◎ 「令和 8 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【学習状況調査】

・国語、算数どちらも、5 年時、6 年時ともに、県平均を下回っている。全国平均との差は、さらに開いている。国語は、5 年時より 6 年時の方が、落ち込んでいるが、算数は、5 年時より 6 年時の方が県平均に近づいている。

・国語では、記述式の問題形式で、「書くこと」の内容に関する問題の正答率が 9.8%（県 27.6%、全国 33.5%）と低く、「読むこと」の内容に関する問題の正答率が 96.1%（県 75.3%、全国 76.4%）と高かった。全体的に、無回答率は低かった。

・算数では、「測定」領域は、県・全国平均を上回っているが、その他の領域は、県・全国ともすべて下回っている。「データの活用」の記述式の問題の正答率が 9.8%（県 13.1%、全国 17.9%）、「図形」の記述式の問題の正答率が 19.6%（県 33.1%、全国 40.1%）と低かった。また、小数の意味や数量の關係に着目することはできているが、基本の四則計算や公式を使った計算ができていない。

【意識調査】

・平日の家庭学習の時間が 1 時間以上の児童の割合が 41.6%であり、県 42.9%、全国 49.9%に比べてやや少ない。平日、ICT 機器を使って 30 分以上勉強する児童の割合が 42.9%であり、家庭学習は ICT 機器の積極的な利用が伺える。

・授業時間以外での読書が 1 時間以上の児童の割合が 1.9%であり、県 10.5%、全国 11.9%に対して圧倒的に低い。学校図書館を利用する頻度は月に 1 ～ 3 回、地域の図書館を利用する頻度は年に数回程度の児童の割合が一番多い。

・国語の授業では、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いていると答えた児童の割合が 86.8%であり、県 80.9%、全国 80.7%に比べて高い。文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめていると答えた児童の割合も 83%で、県 78.6%、全国 78.3%に比べて高い。

・算数の授業では、問題の解き方が分からない時はあきらめずにいろいろな方法を考えていると答えた児童の割合が 88.6%で、県 84.5%、全国 81.7%に比べて高く、このことが無回答率の低さにつながっていると考えられる。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・夏季休業中に、職員研修で2～4年生で実施した学力テストと県学力状況調査（5年生）、全国学力状況調査（6年生）の分析・考察を行った。分析・考察をし、夏季休業以降に取り組む学習内容を考えた。
- ・国語、算数ともに、大事な言葉や数値に印をつけ大事なことを落とさないように読ませる。
- ・朝の時間や家庭学習で、四則計算の基本的な計算練習に取り組ませる。
- ・テーマ作文を、授業中や家庭学習で取り組ませる。
- ・授業での振り返りを書く活動を継続して行い、高学年は条件をつけるなど、書き方を工夫しレベルアップを図る。

(2) （授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

【家庭学習の工夫】

- ・低・中・高学年に応じた課題の設定を工夫する。（自分で選べる宿題、個に応じた量の調整など）
- ・家庭学習で取り組んだ自主学習ノートのコピーを、学級で掲示し、互いに見合い学び合うことができるようにする。

【基本的学習規律の定着】

- ・学力向上の土台となる「授業に臨む構え」を整えるため、毎月の特定の1週間を、必要な文房具がそろっているか確認する「筆箱チェック週間」を実施する。

【教職員向け ICT 研修の実施】

- ・ICT 担当教諭による「ICT ミニ研修」などを実施し、教職員の指導力向上に努める。

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R3 入学 現 6 年生	国語		算数	
	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時
	県	全国	県	全国
	57.9	50.0	48.1	40.0
	(0.95)	(0.89)	(0.77)	(0.77)
R8 正答率の全国比		0.82		0.71

◎ 5 年時は佐賀県小・中学校学習状況調査、6 年時は全国学力・学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

◎ 「令和 8 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

○国語

【正答数と正答率による分析】

・校内平均正答数は 6.6、佐賀県平均正答数 7.2、全国平均正答数 7.9 であった。県と比較して 0.6 ポイント下まわる。全国と比較して 1.3 ポイント下まわる。

・校内平均正答率は 50%、全国平均正答率 60.9% であった。県と比較して 6 ポイント下まわる。全国と比較して 10.9 ポイント下まわる。

【正答数分布からみた分析】

・正答数 5 問以下は全体の 28%、6 問から 7 問は 44%、8 問から 9 問は 6%、10 問から 13 問は 22% である。全体的に見て正答数が少ない。

【問題別分析】

○正答率が低い問題

・(言葉の特徴や使い方)に関する問題は、平均正答率が 48.6% である。県と比較して 12.8 ポイント下まわる。全国と比較して 18.2 ポイント下まわる。

・(情報の扱い方)に関する問題は、平均正答率が 38.9% である。県と比較して 7.7 ポイント下まわる。全国と比較して 13.4 ポイント下まわる。

・(短答式)問題は、平均正答率が 38.9% である。県と比較して 18.2 ポイント下まわる。全国と比較して 23.7 ポイント下まわる。

○正答率が高い問題

・(書くこと)に関する問題は、平均正答率が 50% である。県と比較して 18.7 ポイント上まわる。全国と比較して 4.3 ポイント上まわる。

【学習指導要領の内容からみた分析】

・全国、県の正答率に比べて低い内容は(資料を活用して自分の考えが伝わるように表現を工夫することや漢字を正しく書くこと)である。

○算数

【正答数と正答率による分析】

- ・校内平均正答数は6.4、佐賀県平均正答数8.4、全国平均正答数9.0であった。県と比較して2.0ポイント下まわる。全国と比較して2.6ポイント下まわる。
- ・校内平均正答率は40%、全国平均正答率56.4%であった。県と比較して8ポイント下まわる。全国と比較して16.4ポイント下まわる。

【正答数分布からみた分析】

- ・正答数5問以下は全体の55%、6問から8問は11%、9問から11問は22%、12問から16問は12%である。全体的に見て、正答数が少ない児童が半数を超えていることと、正答数が多い児童もいることから、学級内で算数の学力差が著しいことが分かる。

【問題別分析】

○正答率が低い問題

- ・(数と計算)に関する問題は、平均正答率が46.5%である。県と比較して10.3ポイント下まわる。全国と比較して14.6ポイント下まわる。
- ・(図形)に関する問題は、平均正答率が36.1%である。県と比較して13.9ポイント下まわる。全国と比較して19.2ポイント下まわる。
- ・(測定)に関する問題は、平均正答率が55.6%である。県と比較して18.9ポイント下まわる。全国と比較して22.5ポイント下まわる。
- ・(変化と関係)に関する問題は、平均正答率が22.2%である。県と比較して13.9ポイント下まわる。全国と比較して18.9ポイント下まわる。
- ・(データの活用)に関する問題は、平均正答率が38.9%である。県と比較して5.3ポイント下まわる。全国と比較して9.7ポイント下まわる。

○正答率が高い問題・該当なし

【学習指導要領の内容からみた分析】

- ・全国、県の正答率に比べて低い内容は(全領域の知識・技能、特に図形の求積や割合問題)である。
- ・全国、県の正答率に比べて同じ内容は(数や言葉を用いた記述や条件に合う数の読み取り)である。
- ・全国、県の正答率に比べて高い内容は(数と計算：仕組みを理解して条件に合った小数をつくること)である。
- ・全国、県の正答率に比べて同じ内容は(比喩や反復などの表現の工夫をすることや目的に応じて必要な情報を見つけること)である。
- ・全国、県の正答率に比べて高い内容は(話の構成や展開を考えること)である。

【意識調査からみた分析】

- ・1日あたりのスマートホン・ゲーム等の使用時間は全国、県平均より少ない。
- ・「自分にはよいところがありますか」の問いでは、全国、県平均と比較して、「当てはまる」が少なく、「当てはまらない」が多い。
- ・「授業以外で1日当たりどれくらい勉強をするか」という設問に対して、約7割が30分から1時間であり、全国、県と比較して、学習時間が少ない。
- ・授業以外で全く読書をしない割合は4割で、全国、県と比較して多い。
- ・国語、算数とも授業内容が分からないと回答している児童が全国、県と比較して多い。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

○日常の授業の工夫

- ・学習への意欲を高めるために、児童がやってみたい！解いてみたい！と思うようなゴールを設定する。
- ・国語科では、全体⇒3人班⇒ひとりひとりと学び方を変えつつ、学び方を教えていく。読み取りや要約する力は個人差があるので、協働的な学習の時間を多く取り入れる。
- ・算数科では、学力の差が目立つので、自由進度学習も取り入れながら、練習問題のときは習熟度に分かれた問題を用意しておく。

・4月に比べ、夏休み前の単元テストは全体的に平均点も上がってきている。単元テストのような出題方法には慣れているものの、全国学力・学習状況調査のような、3つの資料の同時読み取りや大問から派生していくような問題には慣れていないので、経験させることが必要である。

○校内研究でも、1人1台端末を効果的に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業実践に取り組んでおり、今後も実践研究を重ねていく。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

○若木っ子タイム（基礎・基本学力向上の時間）の充実

- ・基礎基本が弱い傾向にあるが、習熟度で量と質を分け、ひとりひとりの力を伸ばす。
- ・主に算数科の問題に取り組む。月の第1週は漢字、第2・3週は算数科、最終週は小テストなど、計画的に行うと、本学級の児童は見通しもでき意欲的に取り組める。

○タブレットドリル（ミライシード等）を活用し、家庭学習の充実を図る。

○毎月「生活リズムチェック週間」を設定し、家庭との連携を図りながら、よりよい生活習慣、学習習慣の定着を図っていく。また、児童の実態に合わせた家庭学習の課題の提示や内容の工夫を図り、ICT機器の活用を含めた家庭学習の充実に努めていきたい。

○読書の時間の確保

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R3 入学 現 6 年生	国語		算数	
	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時
	県	全国	県	全国
	63.8	50.0	59.4	46.0
	(1.04)	(0.89)	(0.95)	(0.88)
R8 正答率の全国比		0.82		0.82

◎ 5 年時は佐賀県小・中学校学習状況調査、6 年時は全国学力・学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段（ ）は県平均を 1 としての比較。

◎ 「令和 8 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【学習状況調査】

＜国語＞・基礎的な漢字の定着や、自分の思い・経験を表現する力は身につけている。

- ・一方で、提示された条件や根拠を文章に組み込む力、文脈や目的に応じた表現の工夫に対する理解に課題がみられる。

＜算数＞・単元ごとの計算パターンが明確な問題については良好な理解を示している。

- ・一方で、表やグラフからの根拠の読み取り、理由や解き方を説明する記述問題、および「割合」の概念処理に課題がみられる。

【児童意識調査】

- ・「学校に行くのは楽しい」「分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え工夫している」という質問に対し、肯定的な回答が 100%であった。
- ・一方で、休業日（土日）の家庭学習時間について、「1 時間より少ない」または「まったくしない」と回答した児童が約 70%を占めており、休日の学習習慣の定着に課題がある。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・毎時間の終わりに「ふりかえり」の時間を確実に確保する。学んだことや友達の優れた考え、発展的な課題等を言語化・共有させることで、確実な定着を図る。
- ・国語では、「根拠や条件を指定した短文作成」や「モデル文章を活用した構成工夫の可視化・比較」等の学習活動を日常的に取り入れる。
- ・算数では、児童の理解度に応じた学習内容や問題量の選択制を取り入れるとともに、誤答分析に基づいたつまづき解消の指導を授業内に組み込む。

(2) （授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・朝の会や帰りの会等を活用し、「全員発表・全員アウトプット」の機会を日常的に設定する。
- ・読書活動を推奨し、文章に対する親しみと読解力の基礎となる読書習慣を身に付けさせる。
- ・休日の家庭学習において、「解き方のコツや理由を文章で解説する問題」を宿題として設定し、表現力・思考力の定着と学習習慣の定着を図る。

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R3 入学 現 6 年生	国語		算数	
	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時
	県	全国	県	全国
	52.1	42.0	51.1	41.0
	(0.85)	(0.75)	(0.82)	(0.79)
R8 正答率の全国比		0.69		0.73

◎ 5 年時は佐賀県小・中学校学習状況調査、6 年時は全国学力・学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

◎ 「令和 8 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- 国語、算数ともに県や全国の平均正答率を下回っている。「知識・技能」「思考・判断・表現」のどちらに関する問題についても低い正答率になっており、課題である。また、問題形式に関して見ると、「選択式」はある程度正答しているが、「短答式」や「記述式」では正答率がかなり低くなっている。
- 国語では特に、内容「言葉の特徴や使い方に関する事項」正答率が低い。また、条件を満たして書くことや文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめて書くことができておらず、課題である。
- 算数では特に、領域「図形」「変化と関係」の正答率が低い。資料から条件に合う数を読みとることやそう判断したわけを書くことができておらず、課題である。
- 国語は得意で授業はわかる、算数は苦手だけど授業はわかると回答しているが結果とのずれがある。
- 生活リズムが安定して基本的な生活習慣が整っており、学ぶ土台はできているが、家庭での学習時間が短い。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- 国語、算数ともにまずは前年度までの復習を定期的に行い、基礎的な知識や技能の確実な定着を図る。
- 問題文を読む際に、キーワード等に線を付けたり、図・表などで思考を整理したりして考えを視覚化する場を継続する。
- 複数の資料や文章から自分に必要な数値や事柄を見つける思考の場を増やし、さらに理由等を言葉や式で記述して説明する場を多く設定する。
- 個人差も見られるため、タブレット端末等の活用による個に応じた指導の充実を図る。

(2) （授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

- 家庭学習の内容を工夫し、条件やテーマを与えた日記や作文を書く活動を取り入れていく。
- 家庭学習の定着を図るとともに家庭の教育力向上を目指す。自主学習を奨励し、その目的や内容を明確にして自分の力を伸ばす学習に取り組ませる。
- タブレットドリル等を活用するなどして、前学年までの復習となる学習を家庭学習に取り入れる。
- 朝の時間や家庭での読書の継続化を図るとともに、日常の生活の中で、適切な言葉の使い方に触れるなどして、語彙力を向上させる。

令和 8 年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県小・中学校学習状況調査結果を受けた取り組みについて
武雄市立（東川登）小学校

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R3 入学 現 6 年生	国語		算数	
	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時
	県	全国	県	全国
	67.7	74.0	65.9	68
	(1.1)	(1.3)	(1.0)	(1.3)
R8 正答率の全国比		1.2		1.2

◎ 5 年時は佐賀県小・中学校学習状況調査、6 年時は全国学力・学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

◎ 「令和 8 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- ・国語では、比喩や反復などの表現の工夫に気付くなどの「言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率が高かった。一方、「情報の扱い方に関する事項」の正答率が低かった。
- ・算数では、「数と計算」の領域に関する「小数の十進位取り記数法の仕組み」や「数直線上の分数を捉える」問題の正答率が高かった。一方、「変化と関係」の二つの広場の混み具合を求める式の意味について正しいものを選ぶ問題の正答率が低かった。
- ・意識調査では、「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。」に 9 名（10 名中）の児童が「よくできている」と回答していた。一方、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に 1 名の児童が「あまりできない」と回答していた。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・「マイアセス」で自分に合った問題に取り組ませることができるよう、個人の QR コードをラミネートしたものを各自でもたせ、取り組ませるようにした。
- ・学力テストの結果を基に、各学年の実態に応じた基礎・基本問題や活用問題を用意したり、3 年生以上は、辞書引きタイムを設けたりして、「チャレンジタイム」とし、全校一斉に課題に取り組む時間を設定した。

(2) （授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・家庭学習で、要約や組み立てを考えて文章を書くなどの問題に取り組ませる。
- ・家庭学習で、自分の考えを言葉で説明するなどの算数の活用問題に取り組ませる。
- ・自学ノートは、取り組む期間を決めて、自分で計画を立てて学習を進めるようにする。

令和8年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県小・中学校学習状況調査結果を受けた取り組みについて
武雄市立橘小学校

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R3入学 現6年生	国語		算数	
	5年時	6年時	5年時	6年時
	県	全国	県	全国
	64.8	60	74.5	58
	(1.06)	(1.07)	(1.20)	(1.12)
R8正答率の全国比		0.99		1.03

◎5年時は佐賀県小・中学校学習状況調査、6年時は全国学力・学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎「令和8年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

調査の結果から、国語については全国平均を下回っており、話し合いにおける発言のつながりや内容を捉え、前後の文脈から話し合いの展開を予測して適切な発言を判断する力に課題が見られる。
一方で、算数については全国平均を上回っていたが、二次元の表から複数の条件を関連付けて読み取ることによって課題が見られる。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・国語科では、話し合いの途中で、「次にどのような発言が考えられるか」を予測する活動や前後の文脈を根拠に説明する活動を継続的に取り入れる。
- ・算数科では、表の縦軸・横軸が示す内容を確認し問題文から複数の条件を取り出して整理するとともに条件を関連付けながら表から必要な情報を読み取る活動を充実させる。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・委員会活動や代表委員会などでの児童会活動で、「前の人の発言を受けて話す」ことを日常から意識させるような指導を継続する。
- ・また、委員会活動の中で取り扱う統計やアンケートなどから、分かったことを比較・分析し、その結果を根拠として活動の改善策を考えたり、話し合ったりすることで資料を活用して判断する力を育成する。
- ・週1回のパワーアップタイムを設定し、思考力・判断力・表現力を育成する問題に挑戦させる取り組みを継続する。

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R3 入学 現 6 年生	国語		算数	
	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時
	県	全国	県	全国
	70.4	54	67.9	55
	(1.15)	(0.96)	(1.09)	(1.05)
R8 正答率の全国比		0.88		0.97

◎ 5 年時は佐賀県小・中学校学習状況調査、6 年時は全国学力・学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

◎ 「令和 8 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【国語】

- ・ 6 年時の結果を見ると、全体の平均正答率は、県や全国の平均正答率を下回っている。
- ・ 観点別に正答率を見ると、「知識及び技能」「思考・判断・表現」において県、全国の正答率を下回っている。
- ・ 「思考・判断・表現」の内容の中で、特に「書くこと、読むこと」において、県の正答率をやや上回ったが、全国の正答率より下回っている。
- ・ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題において、県や全国の正答率を大きく下回った。

【算数】

- ・ 全体の平均正答率については県の平均正答率を上回ったが、全国の平均正答率より下回っている。
- ・ 観点別に正答率を見ると、「知識・技能」「思考・判断・表現」のどちらも県の正答率を上回っているが、全国の正答率よりやや低かった。
- ・ 「図形」と「測定」の領域において県や全国の平均正答率を上回った。一方で、「変化と関係」の領域では、県や全国の平均正答率を下回った。
- ・ 基準量、比較量、割合の関係を捉え、正しく表されている図を選ぶことができるかどうかをみる問題では、校内における平均正答率が低かった。

【意識調査】

- ・ 「毎日朝食を食べる」「同じくらいの時刻に寝る」「同じ時刻くらいに起きる」の項目で、県や全国よりも高く、生活リズムが整っていると言える。
- ・ 「自分には、よいところがある。」や「人の役に立つ人間になりたい」と、県や全国の回答より肯定的な回答が高かった
- ・ 「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」また、「授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていたか」「友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができているか」等では、県や全

国と比較して肯定的な回答が低かった。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・課題解決に向けた具体的な手立てとして、単に答えを出すだけでなく、「なぜその式になるのか」「図のどこからそれが分かるのか」友達と話し合う場面を設定する。
- ・毎時間の授業に「目的の明確化」「多様な学び方の設定」「振り返り」の3要素を取り入れることで、自ら学びを調整しながら探究を深めていける児童を育む。
- ・毎週2回、朝の時間の10分間スキルタイムを設けて、基礎的・基本的な学力の定着を図る。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・家庭でする学習時間をあたりまえに位置づけさせるために、学習時間を意識させ、学力の向上を図る。また、家庭学習、早寝早起き時間調査を年に2回実施し、継続して家庭との連携を図る。
- ・図書館教育の推進の一つとして、学年に応じた年間目標冊数を決め、達成したら「読書マイスター」として紹介することで、読書が学校生活・家庭生活の一部となるよう取り組む。

令和 8 年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県小・中学校学習状況調査結果を受けた取り組みについて
武雄市立（山内西）小学校

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R3 入学 現 6 年生	国語		算数	
	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時
	県	全国	県	全国
	62.5	51.0	61.6	51.0
	(1.02)	(0.91)	(0.99)	(0.98)
R8 正答率の全国比		0.84		0.90

◎ 5 年時は佐賀県小・中学校学習状況調査、6 年時は全国学力・学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

◎ 「令和 8 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【国語】県平均・全国平均よりも低い正答率

- ・問題形式ごとに見ると、選択式や記述式問題の正答率は、県及び全国平均より低い。
- ・内容別に見ると、「話すこと・聞くこと」の正答率は県及び全国平均より低く、全国平均を 1.0 以上下回っている。「書くこと」は県平均より高く全国平均より低い。県及び全国平均を下回った問題は、資料活用と表現、情報と情報の関係について理解する問題である。

【算数】県平均・全国平均よりも低い正答率

- ・問題形式ごとに見ると、選択式・記述式問題の正答率は、県及び全国平均より低い。
- ・観点別に見ると、思・判・表については、平均正答率が全国平均より 1.0 以上下回っている。
- ・領域別に見ると、「データの活用」の正答率は、県平均より高い。「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」の正答率は、県及び全国平均よりは低い。県及び全国平均を下回った問題は、立体の体積と百分率、概数の問題である。

【意識調査】

- ・「毎日同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きている」と回答した児童の割合は、県および全国平均を上回っており、基本的な生活習慣が極めて良好に定着している。
- ・「学校に行くのは楽しい」と肯定的に回答した児童の割合は 8 割を超えている。また、「困りごとや不安があるときに、先生や学校の大人に相談できる」と回答した児童は 7 割以上を占めている。
- ・「ICT 機器で文章を作成することができる」「プレゼンテーションを作成することができる」という項目において、肯定的な回答の割合が県および全国平均を上回っている。授業内での利活用が進んでおり、児童が学習の有効なツールとして実感を得ている。
- ・国語の学習に対する「好きである」「得意である」「内容がよく分かる」といった肯定的な回答の割合は、県および全国平均と同等かやや上回っている。一方で、算数に対する「好きである」「得意である」と答えた児童の割合は、県・全国平均と同等かやや下回っている。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・定着している良好な生活習慣や高い学校生活満足度を基盤とし、ICT を活用した協働的・個別最適な学びをさらに推進する。また、端末を「ほぼ毎日」の学習ツールとしてより日常的に活用できるよう、全教科での日常使いを工夫する。
- ・「授業づくりステップ123」を用いて、「書く活動」「話し合う活動」を重点的に取り組み、定期的に振り返ることで、授業改善について意識の継続を図る。
- ・教科を問わず、振り返りなどを通して条件付きの文章作成に取り組みさせる。例えば、お題に合わせた日記の宿題（条件作文）を継続して行う。また、短文ワークやミニ作文などを取り入れ、条件に合わせて書く活動を取り入れる。つなぎ言葉を入れた文を書くことや、読み取る練習をする。
- ・タブレットのドリル機能を活用し、6年生の内容だけでなく他学年の単元も復習として課題を配信する。
- ・図やグラフなどを準備し、視覚的に理解できるようにする。

(2) （授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・教科等の学習に読書活動を取り入れた実践を行う。
- ・西っ子タイム等の時間を使って、タイピングをさせる時間と、読書の時間を分けて与える。
- ・校内研究では、「個別最適な学び」「協働的な学び」を意識した授業づくりを行い、授業研究会等を開き、授業改善に取り組む。
- ・必要に応じて可能な限り、TT 授業や少人数指導ができるような支援体制を整える。理解度に応じた少人数指導を取り入れ、既習事項の復習も兼ねながら指導を進める。

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R3 入学 現 6 年生	国語		算数	
	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時
	県	全国	県	全国
	69.2	50	76.7	52
	(1.13)	(0.89)	(1.23)	(1)
R8 正答率の全国比		0.82		0.92

◎ 5 年時は佐賀県小・中学校学習状況調査、6 年時は全国学力・学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

◎ 「令和 8 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

正答率について、国語は、県・全国平均を下回っており、算数は県平均と同じ、全国平均を下回っている。

【国語】「話すこと・聞くこと」については県平均を上回っているが、「読む」「書く」については課題がある。また、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」が平均をかなり下回っている。「書くこと」については条件作文での無回答が多く、苦手意識をもつ児童が多い。「読むこと」については長文の問題になると、読み取ったり要旨をまとめたりすることが苦手である。

【算数】「図形」「変化と関係」の領域で県平均を下回っているが、「測定」の領域では県平均を上回っている。問題文の長さや資料の量が多い問題は、正答率が低い。記述の問題では無回答が多く、問題が複雑になると、取り組もうという意欲が低くなっていることが伺われる。

【児童質問】決まった時刻に起床・就寝しているという児童は、県平均よりも多かった。しかし、スマートフォンやタブレットなどの通信機器を使う時間が 3, 4 時間以上の児童が、県・全国平均を大きく上回っている。また、家庭学習の時間は、県・全国平均を大きく下回っている。このことから、家庭での過ごし方・家庭学習の取り組みに課題があることがわかる。また、読書の時間も短い。

ICT 機器を活用した学習について、情報を整理したり活動のプレゼンテーションを作成したりすることはできるが、それらを活用して自分の考えがうまく伝わるように話の組み立てを工夫するなどして発表することには、苦手意識をもっている。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

国語も算数も、特に長文や資料の多い問題の意味を理解するために解き方のコツを教えていく。授業での自力解決の際にも長文の問題では押さえるポイントに印をつけながら読んだり、資料の意味やどんな時に活用するのかを押さえたりして、方法を教えてから考えさせるようにする。活用問題を苦手としているので、朝のスキルタイムなどに 1 問ずつ取り組ませるなどして、問題形式に慣れさせる。また、条件作文を各学年の発達段階に合わせて、授業や宿題、朝のスキルタイムなどに取り組ませ、書くことへの抵抗をなくしていく。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・読書の推進を行っており、朝の時間・空き時間など、隙間時間に本を読む習慣がつくように取り組んできたので、図書室の利用なども多くよく本を読んでいるが、読む本の質については課題がある。問題の意味を読み取る力につながるように、各学年の発達段階に合った質の高い本を読んだり、いろいろな分野の本を読んだりすることを推奨する。教師による読み聞かせや、互いに紹介して読みあう試読会を行うなど、読書活動を工夫していく。
- ・帰宅後の生活については、スマートフォンなどのデジタル通信機器を使う時間が平日も休日も多く、睡眠時間が十分に取れていないという実態もあるので、学年の発達段階や実態に応じた方法で、規則正しい生活について考える授業を行うなど指導を工夫する。また、保護者へ家庭学習の時間、デジタル通信機器の使用時間等の実態を周知し、改善を呼びかけていく。